

2020 年度電線需要見通し改訂

2020 年 10 月 2 日
調査統計専門委員会

調査統計専門委員会では、本年 3 月に策定した 2020 年度の電線需要見通しの改訂を取りまとめた。

今年度は例年通り当初需要見通しの策定作業を実施したものの、新型コロナウイルス感染拡大による影響を盛り込んでおらず、公表は控えた経緯があり、今回の需要改訂が今年度最初の需要予測の公表という位置づけになる。そのため当初見通しは、新型コロナ緊急事態宣言前に策定したもので参考値である。

内需は、下記日本経済マクロ指標を前提に、公知情報（電線出荷の足元状況含め）から統計的手法による分析に基づいた当委員各社のアンケート結果を集約し、輸出部門については、国際問題専門委員会幹事会で策定した。

1. 2020 年度改訂見通し 概要

2019 年度の日本経済は、米中貿易摩擦を背景に中国経済の減速の影響、消費税増税など景気を押し下げる要因もありながらも、企業の設備投資、東京五輪関連など公共投資を受けて堅調に推移した。

2020 年 4 月から 5 月においては、新型コロナウイルス感染症により中国をはじめとした欧米諸国等でのロックダウン（都市封鎖）の影響を受けて世界経済は急速に悪化した。わが国では 2020 年 4-6 月期の実質 GDP は、緊急事態宣言の発令を受けて、外出自粛や店舗の営業自粛の影響で民間消費が急速に落ち込んだことを主因とし、このほか設備投資や住宅投資も減少し、前期比年率 -27.8% と過去最大のマイナス成長となった。また、参考指標となる 4 月の鉱工業生産指数は前月比 -9.1% の減産幅となり、リーマンショック後 2009 年 1 月の前月比 -8.9% を上回った。全製造業および観光業をはじめとする非製造業においてもこれまでにない非常に厳しい状況に陥っている。緊急事態宣言解除後、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じながら、しばらく下げ止まりの状況を続け徐々に回復傾向に向かうものと考えが、まだこれから冬を控えて再び新型コロナウイルスが蔓延する懸念もあり、予断を許さない状況が続くものとみている。

2020 年度の銅電線出荷量は、内需 608 千トン（2019 年度実績比 -10.3% ）、輸出 11 千トン（同 -34.5% ）、内外需計で 619 千トン（同 -10.8% ）と予測し 2 年連続の前年度比減少となり、1970 年度の 618 千トン以来の低水準となる見通しである。

需要部門別の内訳をみると、自動車部門の 73 千トン（同 -19.2% ）をはじめ電機部門が 119 千トン（同 -11.8% ）、建設・電販部門が 314 千トン（同 -8.2% ）と大幅な減少、電力、通信部門においては、コロナ禍による工事延期等の影響はあるものの設備更新需要から若干の減少と予測した。

アルミ電線の 2020 年度出荷量は、内需 24 千トン、輸出 5 千トンで、合計 29 千トンと予測した。電力部門は、既設線路の更新需要が見込まれるが、前年度比 -2.7% と若干の減少。輸出部門は前年度比 -15.3% と予測した。

2. 前提条件と主な参考指標

(1) 日本のマクロ経済指標 (2020 年度/2020 年 8 月公表)

※<>内は当初予測時の指標

・実質 GDP 成長率	-6.0%	<+0.4%>
・民間最終消費支出	-5.9%	<+0.1%>
・民間企業設備投資	-3.3%	<+0.2%>
・民間住宅投資	-7.8%	<-1.5%>
・鉱工業生産指数	-13.4%	<-0.6%>

(2) 内閣府「月例経済報告」2020 年 8 月

(3) 一般社団法人日本鉄鋼連盟「2020 年度の鉄鋼需給の動き」2020 年 8 月

(4) 一般財団法人建設経済研究所「建設経済モデルによる建設投資の見直し」2020 年 7 月

(5) 民間調査機関資料 ・大和総研「第 206 回日本経済予測」2020 年 8 月

・みずほ銀行「主要産業の需給動向と短期見通し」2020 年 6 月

(6) 日本銀行「第 185 回全国企業短期経済観測調査」2020 年 6 月

3. 2020 年度需要見通し結果

部 門	コメ ント
通 信	通信インフラの光化進展は継続すると見て、当初据置、2019年度比減。
電 力	新型コロナ感染拡大による工事延期等はあるものの、高経年ケーブル、設備の更新需要に期待し、当初比微減、2019年度比減。
電 気 機 械	新型コロナの影響による企業の収益悪化で民間設備投資が抑制され、当初比減、2019年度比減。
重 電	発電所の更新需要が低調で、民間設備投資も伸びず、当初比減、2019年度比減。
家 電	東京五輪開催延期と新型コロナ感染拡大により個人消費が低迷し、当初比減、2019年度比減。
電子・通信	5G、IoT関連需要への期待はあるものの、新型コロナによる経済減速の影響で、当初比減、2019年度比減。
電装品	自動車生産台数が大幅に減少すると予想され、当初比減、2019年度比減。
自 動 車	新型コロナの世界的な感染拡大により、国内・海外とも需要が大幅に減少、自動車生産台数も減少すると見込まれ、当初比減、2019年度比減。
建 設 ・ 電 販	東京五輪需要の収束に加え、新型コロナの影響による工事中断、新規設備投資需要の抑制もあり、当初比減、2019年度比減。
そ の 他 内 需	新型コロナの影響で国内消費は低迷し民間設備投資の伸びは期待できず、当初比減、2019年度比減。
輸 出	新型コロナの世界的感染拡大により、景気回復の兆しが見られる国は一部あるものの、米中貿易摩擦も相俟って依然厳しい状況であり、当初比減、2019年度比減。

図1 2020年度電線需要見通し改訂結果

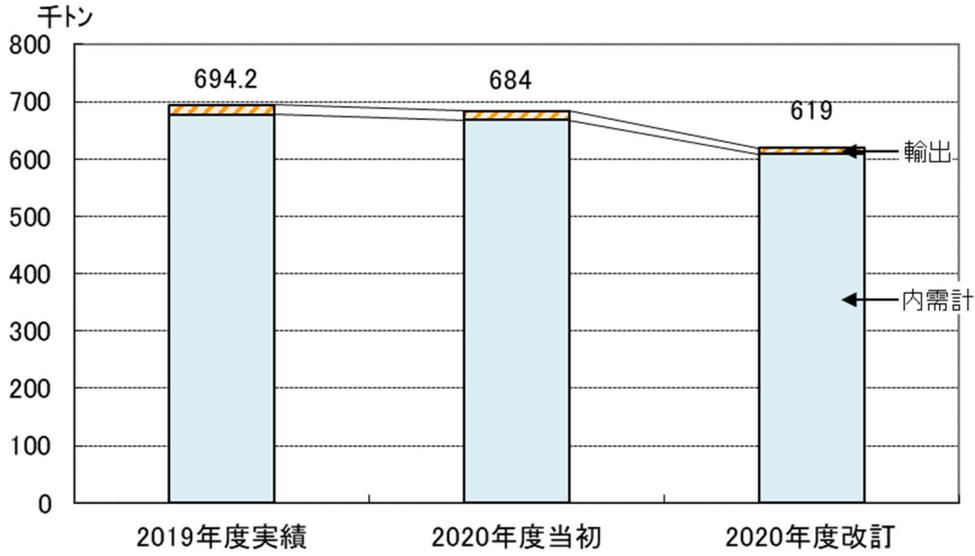


表1 2020年度電線需要見通し改訂

単位: 千トン

銅電線	2019年度実績	2020年度当初	2020年度改訂	前年度比
内需	677.5	668	608	-10.3%
輸出	16.8	16	11	-34.5%
合計	694.2	684	619	-10.8%

単位: 千トン

アルミ電線	2019年度実績	2020年度当初	2020年度改訂	前年度比
合計	31.0	28	29	-6.5%

図2 2020年度需要部門別見通し



図3 出荷推移（銅電線）

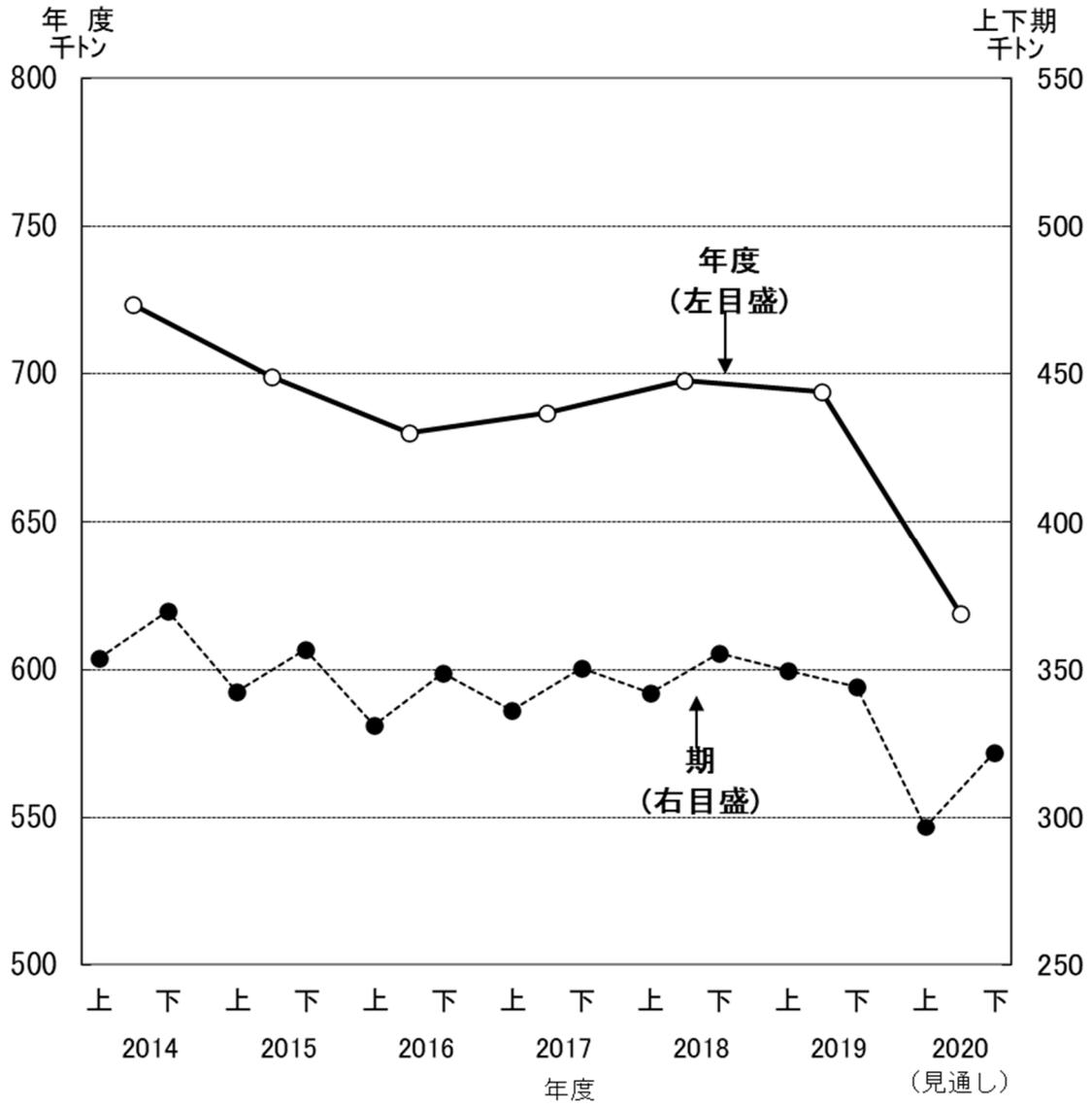


表2 2020年度電線需要見通し改訂
(主要部門別)

単位:千トン

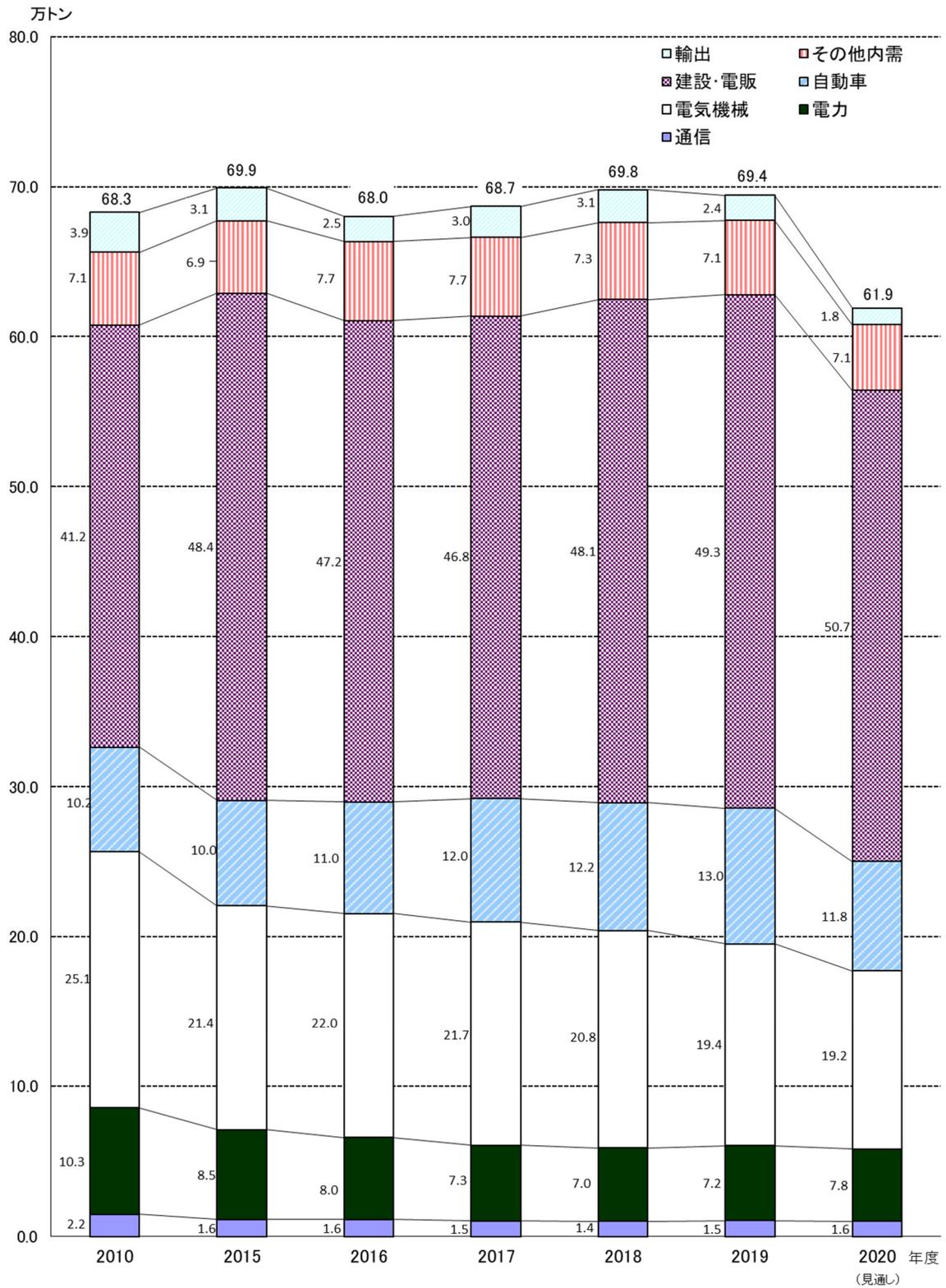
年度 期 部門	出 荷							
	2019 (実績)	2020 (見通し)						
		当 初			改 訂			
		上期	下期	計	上期	下期	計	20/19(%)
通 信	10.5	5	5	10	5	5	10	-4.8
	(18.5)	(9)	(9)	(18)	(9)	(9)	(18)	(-2.7)
電 力	49.8	24	25	49	24	24	48	-3.6
電気機械	134.9	66	67	133	59	60	119	-11.8
重電	26.2			26			24	-8.4
家電	12.1			11			10	-17.4
電子・通信	25.5			25			23	-9.8
電装品	53.6			53			45	-16.0
その他	17.6			18			17	-3.4
自 動 車	90.4	44	45	89	33	40	73	-19.2
建設・電販	342.2	166	171	337	149	165	314	-8.2
	(6.5)	(3)	(4)	(7)	(3)	(3)	(6)	(-7.7)
その他内需	49.6	25	25	50	22	22	44	-11.3
	(25.1)	(12)	(13)	(25)	(12)	(12)	(24)	(-4.4)
内 需 計	677.5	330	338	668	292	316	608	-10.3
	(5.9)	(1)	(2)	(3)	(3)	(2)	(5)	(-15.3)
輸 出	16.8	7	9	16	5	6	11	-34.5
	(31.0)	(13)	(15)	(28)	(15)	(14)	(29)	(-6.5)
合 計	694.2	337	347	684	297	322	619	-10.8

(注)1. ()内はアルミ電線を示し外数。

2. 四捨五入のため、計と合わない場合もある。

3. 当初…2020年3月(新型コロナ緊急事態宣言前に策定のため参考値)、
改訂…2020年9月策定のもの。

図4 部門別出荷推移



(左側の数字は内外需計を100とした構成比%)